

神楽通信

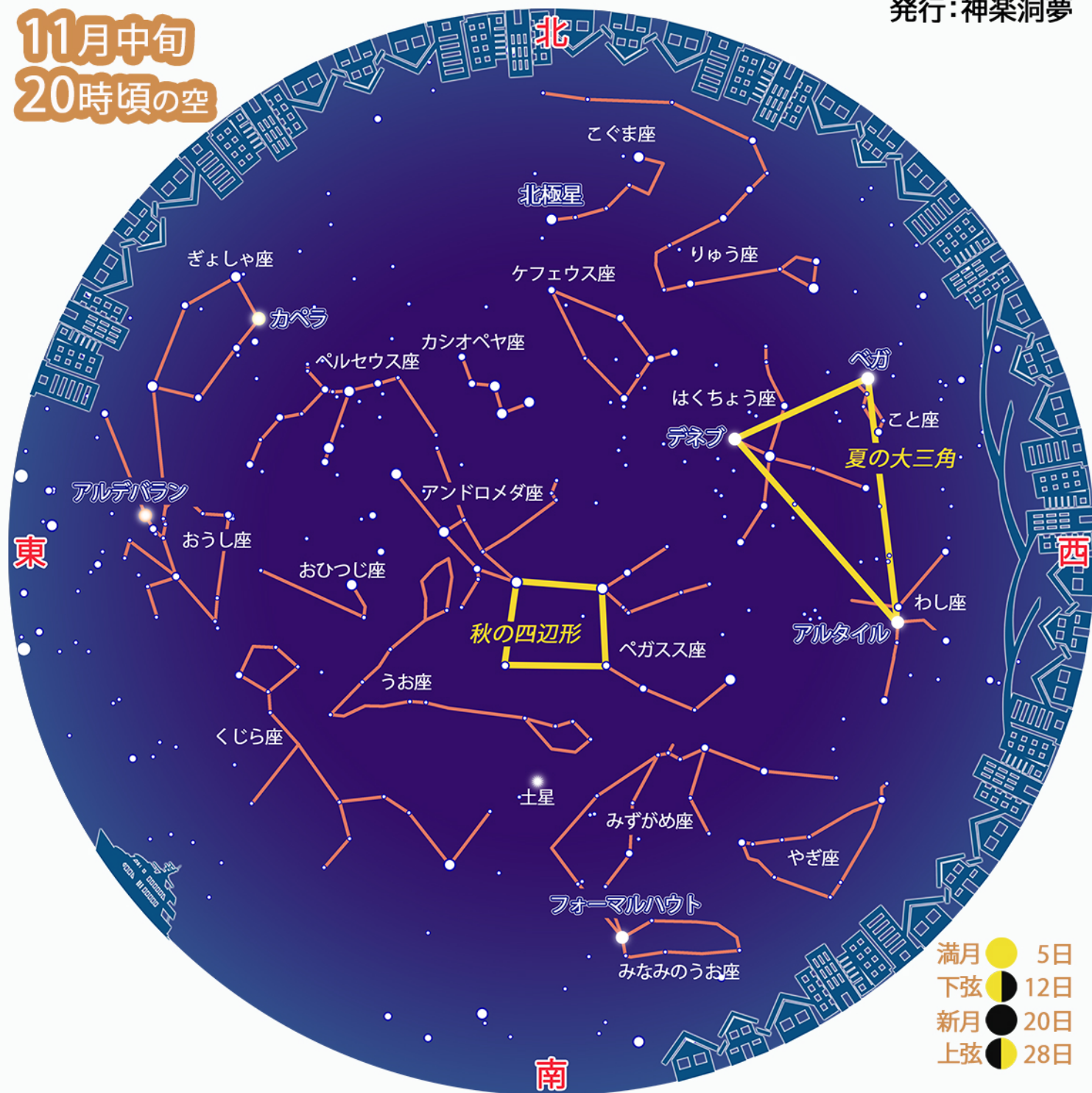
No.117

2025年

11月号

発行:神楽洞夢

11月中旬
20時頃の空



11月に入り、秋の深まりもより一層感じられるようになりました。晩秋の宵空を見上げると、明るい1等星と惑星の輝きが目にとまります。しかし、秋の夜空の目印である「秋の四辺形」は少し暗い2～3等星を結んで描きます。長い秋の夜に見える明るい星を探しながら暗闇に目を慣らしていけば、天頂付近に輝く秋の四辺形を見つけることができます。

美しい環をもつ巨大な惑星 土星

南の空の高くに明るく輝いている土星。

一番の特徴は、土星の周りを囲む「環」です。

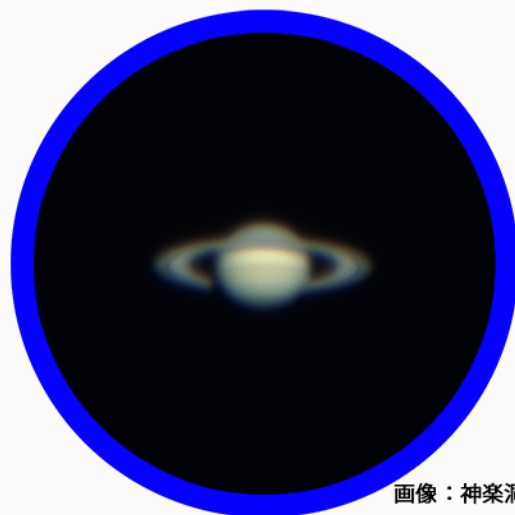
実は、土星以外にも太陽系最大の惑星である木星や、天王星、海王星にも環は存在しますが、小型の望遠鏡でもはっきりと見える環を持つのは土星だけです。

土星の環は、彗星や小惑星、衛星の破片が土星のもつ強力な重力によって砕かれたものと考えられており、そのほとんどは大小様々な大きさの氷や岩の粒です。

環には、発見された順にアルファベットで名前が付けられており、A環とB環の間には「カッシーニ^{くわげき}の空隙」と呼ばれる隙間があります。

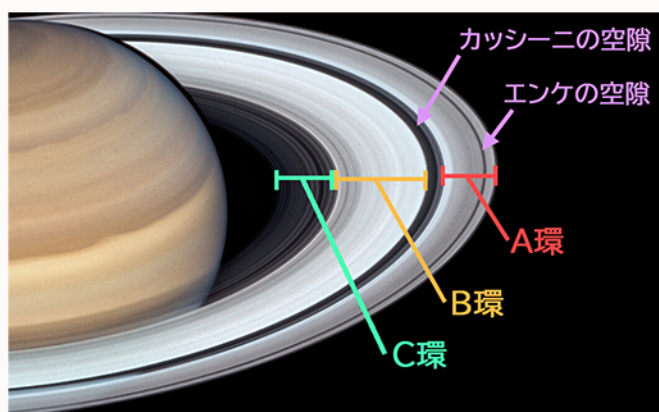
望遠鏡で見ると細い線のように見えますが、実際の幅はおよそ4700キロメートルにもおよびます。

そんな土星の環は、惑星からおよそ28万キロメートルまで広がっていますが、一方で環の厚みはとても薄く、最もはっきり見えるA環やB環でもおよそ1キロメートルと言われています。



画像：神楽洞夢

2022年10月の土星の様子



画像：NASA, ESA, A.Simon(GoddardSpaceFlightCenter), and M.H. Wong(University of California, Berkley)

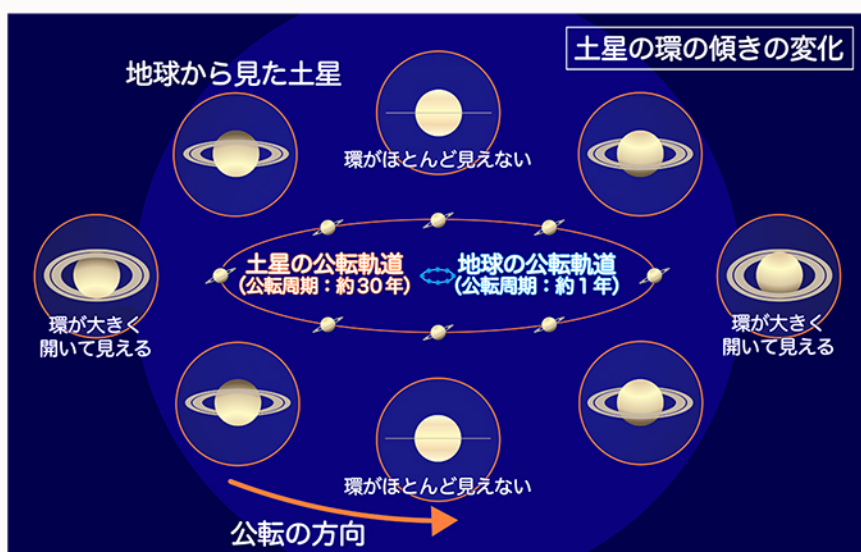
土星の環と隙間

土星の環が消える！？

土星の環はおよそ15年周期で傾きが変わっており、その開き方が変化して見えます。

2017年ごろに環が最も開いて見えていましたが、今は環を真横から見る形になるため、環は非常に細くなっています。

土星を観察される際は、環の見え方の変化にも注目して観察してみてもいかがでしょうか。



画像参照：国立天文台



Okasan Digital Dome Theater
神楽洞夢
KAGURA DOME

〒514-0032 三重県津市中央5-20 岡三証券グループ津ビル4階
<http://kagura-dome.jp> TEL. 059-221-3121 FAX.059-226-1565